



平成 27 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
 代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 7 4 7)
 問い合わせ先 専務取締役管理本部長 多々良 孝之
 電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 28 年 3 月期第 1 四半期累計の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 28 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期第 1 四半期累計期間の業績速報値及び業績の差異

連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
前 年 同 期 実 績 (平成 27 年 3 月期第 1 四半期累計) (A)	902	△136	△124	△113
当第 1 四半期連結累計期間実績見込み (平成 28 年 3 月期第 1 四半期累計) (B)	1,163	20	33	523
増 減 額 (B - A)	260	156	158	636
増 減 率 (%)	28.8	—	—	—
(参考) 平成 27 年 3 月期実績	4,772	488	518	193

2. 差異が生じた理由

連結業績見込み

当第 1 四半期連結累計期間（平成27年 4 月 1 日～平成27年 6 月30日）においては、デフレからの脱却と、持続的な社会保障制度の確立を政策課題とし、日本銀行による大胆な金融政策の導入、社会保障と税の一体改革の関連法案の成立など、具体的な施策の取組が進み、景気は緩やかな回復基調となりました。一方、世界経済は、米国での市場予測を上回る良好な経済指標や根強い米利上げ観測などが影響し、米国を中心とした景気回復が続いているものの、中国の経済成長の減速や、ギリシャ問題が解決できないEU(欧州連合)及び中東における地政学的リスク等により、先行きは不透明な状況が続いておりますが、商品先物取引の出来高は397,521枚(前年同期比34.7%増)及び金融商品取引等の出来高は855,851枚(前年同期比184.5%増)となり、受取手数料は1,118百万円(前年同期比27.6%増)、売買損益は38百万円の利益(前年同期比163.5%増)となる見込みであり、営業収益は1,163百万円(前年同期比28.8%増)、経常利益33百万円(前年同期は124百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益523百万円(前年同期は113百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)を計上する見込みであります。

以 上